

タイトル： 『UNI コーン Ven 利 der ～HEY! B.R.B(Be Right Back)!～』

学籍番号：C124053A 氏名：加藤 弘絵

問題：利用者のニーズに応える新しいコンビニ（もっけ）を提案する。

私は『もっけの不便さ』について平日 5 日間 11 時から 19 時の間、1 階のカフェテリアで計 107 人（1 年生 23 人、2 年生 43 人、3 年生 37 人、4 年生 4 人）の公益大生に聞き取り調査を行った。1 位は『校内の勉強場所からもっけが遠い(47%)』、2 位は『営業時間が短く、行きたい時にはすでに閉店している (27%)』、3 位は『品揃えが少なすぎる。(22%)』。

調査結果より『遠い・営業時短・品揃えの不足』がユーザーの顕在的ニーズ。潜在的ニーズは『距離が近く長時間営業のサービス』と仮定した。私は『校内のどこにいても近くて、長時間営業で、全ての人が買いやすい販売を行うには?』という課題を設定した。

コンセプトは『誰でも、いつでも欲しい物が近くで買える』。プロダクトは 4 つ設定した。1 つ目はもっけの機能を成す 24 時間営業型の自動販売機のけやき広場への設置する。2 つ目は音声認識機能の搭載。3 つ目は 24 時間 365 日営業である。4 つ目は生鮮・加工食品は全てフリーズドライのワンプレート式である。(図 1, 2, 3)

けやき広場に設置について校内（ドミトリイも含む）にいれば自動販売機を中心に半径 600m 以内（16~50 歳の平均移動範囲）の行動で済むためである。公益大より近くのセブンイレブンまでは約 800~900m あり、徒歩 8~10 分かかる。校内のほぼ中心部に位置するけやき広場であれば校内のどこから向かってでも徒歩で 2~3 分程で着く。

車がない学生やアルバイト等の多忙でスーパーマーケットへ買い物にいけない学生でも各々の都合に合わせて購入可能になる。品揃えは食品から雑貨まで取り揃える。

フリーズドライの生鮮・冷凍食品（地元農家・企業の商品）により長期保存が可能で、何度も購入せずに済む。ワンプレート式にし洗う手間を短縮を図り、より一層便利さを追求する。皿は公益大オリジナルデザインのプラスチックで再利用できる物とする。

商品は毎月顧客ニーズ調査を行い、変更するか否かを決める。

期待される効果は 4 つである。

1 つ目は長時間営業と豊富な品揃えでいつでも欲しいものが近くで手に入る。よって、『けやき広場に少し歩いていけば、いつでも買い物ができる』安心感があることにより、学生たちの学習への集中度向上や学習環境へのサポートにも繋がる。また、公益大生にかかわらず、商品が国内外から来た観光客のお見上げとなったり、『酒田の味を知りたい』と思っている観光客にとっての名物になると考える。そして、一人暮らしで料理が

自分で行えないお年寄りや、夜遅くまで働いてスーパーマーケットなどに買い物に行けない家族世帯や単身世帯が生活用品を購入するための場にもなる。それにより、公益大生の『便利』がたくさんの人の『便利』へと繋がるのである。

2つ目は音声認識機能の使用により全ての人々にとってのユニバーサルデザインを実現できる。全ての人がメニュー表の文字を読む事ができたり、注文ボタンを自分で押す事ができたりできるわけではない。そのため、『HEY, Siri』のようなAI搭載音声認識機能を使用しハンズフリーによる注文を確立する事で、どんなハンディキャップを持っていても関係なく、よりたくさんの人々が使えるものになることが見込まれる。

3つ目はワンプレート式で洗い物を大幅に減らすことによる汚染回避と、フリーズドライで長期保存可能化やフードロスの増加回避により、人にも環境にも優しい『便利』が生まれる。自然環境の解決への貢献につながる。(図3)

4つ目は地元産業・企業と公益大の発信と地域連携に繋がる。これにより公益大学がより地域に開かれたプラットフォーム的存在となり、『真の公益』の実現につながると考える。地域の物産品が売れる機会が増えれば、地域産業・企業の利益が増加し、外部への発信力も増す。人や環境に配慮しつつ、地域社会に貢献し、全ての公益大生の常に『近く』で『便利』の追求を実現できる。(図4, 図6)

結論として、人（特に公益大生）にとってユニバーサル(UNIVERSAL)で便利(CONVINIENT)で、環境にユニバーサル(UNIVERSAL)で、かつ酒田市ならではの珍しい物産を販売することによるユニーク(UNIQUE)な、24時間365日営業している、もっけの代わりとなる自動販売機(Vender)『UNI コーン Ven 利 der』によって、より利用者のニーズに応えられる新しいコンビニの設置を提案する。

図 1

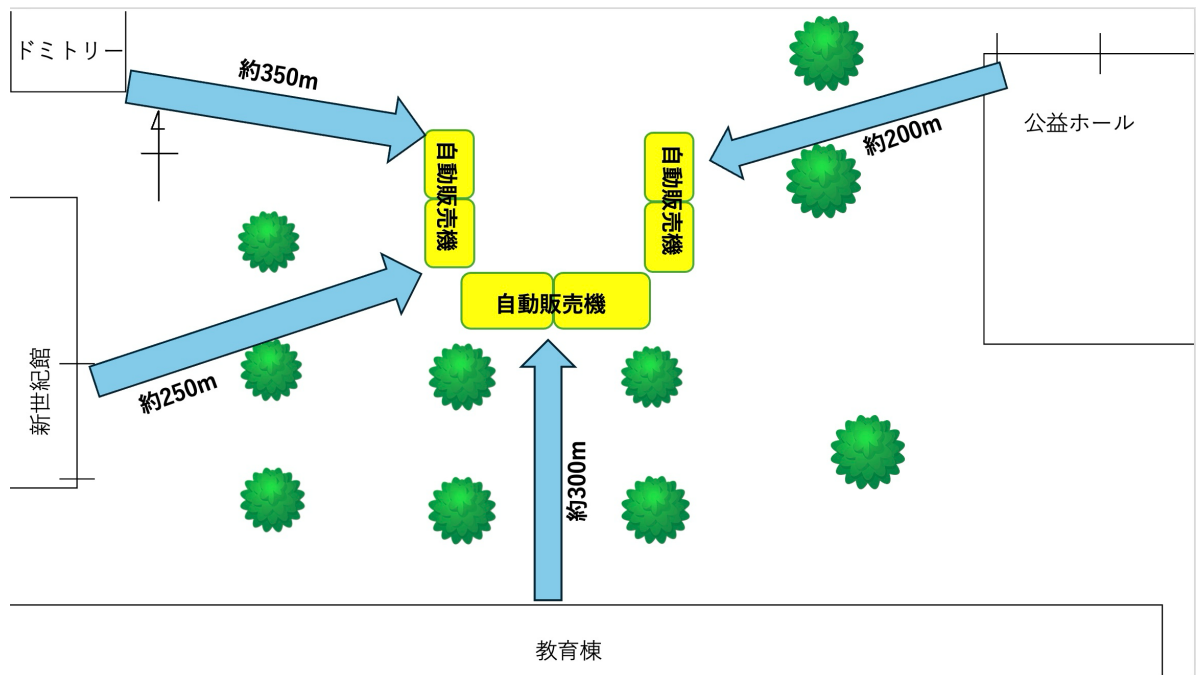


図 2



図 3



図 4

## ○期待される効果

人に**UNIVERSAL** & 便利を → ○誰でも利用可能  
○食品から雑貨まである

環境に

**UNIVERSAL**を→ ○必ずワンプレート形式で提供  
○全て日持ちの良い冷凍食品  
○お皿はすべて磁器に

**UNIQUE**に→ ○毎月変わる地元企業の商品  
○本校学生がデザインした皿使用  
⇒ 地元企業や大学の宣伝（社会貢献）

図5

# UNIVERSAL & UNIQUE コンビニエンス(便利) VENDER 24H

図6

## ○期待される効果

公益大生の“便利”がたくさんの人々の“便利”へ

- ・一人暮らしの高齢者、働く世代・世帯
- ・酒田の味を知りたい観光客

⇒ **客層**と**集客数**を広げるきっかけに

⇒ 公益大をより開かれた場所へ ⇒ 公益大と**地域が密接に繋がる**

⇒ 公益大の**知名度UP**へ！

## 真の公益を実現